

報道関係者各位

2025 年 4 月 22 日
富士電線株式会社
SWCC 株式会社

低圧耐火ケーブル平型溝付「EM-SH-C® (FV)」

2025 年 4 月より全サイズ切り替え

SWCC 株式会社（本社：神奈川県川崎市、代表取締役 CEO 社長執行役員 小又哲夫）の子会社である富士電線株式会社（本社：神奈川県伊勢原市、代表取締役社長：井上和彦、以下「当社」）は、ハイエンド消防用ケーブルシリーズの新規ラインナップ品として、低圧耐火ケーブル平型溝付「EM-SH-C® (FV)」3 心を 2025 年 4 月より販売開始いたしました。

本製品は 2024 年 4 月の単線 2 心販売開始以来、順次ラインナップの拡充を図っていましたが、今回の 3 心追加に伴い全サイズでの販売となりました。



低圧耐火ケーブル平型溝付 EM-SH-C® (FV)

■開発の背景

本製品は従来の消防用ケーブルに「取り扱い性向上」や「軽量化」などの価値を付与した、ハイエンド消防用ケーブルシリーズの一環として開発を進めてまいりました。

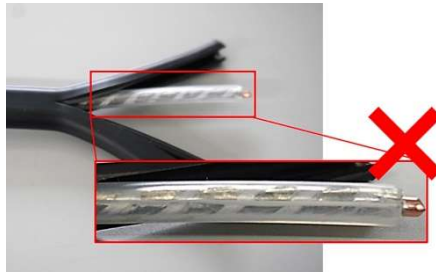
従来の低圧耐火ケーブル平型は、外被表面が平滑であったため、電工ナイフやカッターを用いた端末処理の際、どこに刃を入れて外被を除去すればよいのかが分かりづらく、力加減によっては絶縁体を傷付け、絶縁不良に繋がるケースもありました。

この課題に対して当社では、製品外被上に刃のガイドとなる溝を設けたこと

で、内部絶縁体を傷付けることなく、安全な端末処理作業を実現いたしました。加えて溝を設けたことによる製品重量の軽量化、可とう性の向上、更には良好なグリップ性といった副次効果も得られております。

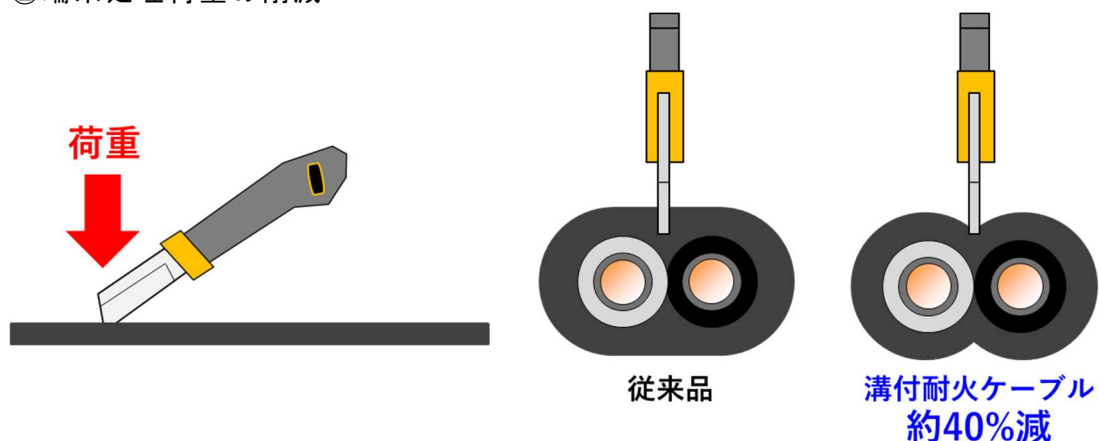
■新製品の特徴

①端末処理作業性の向上

項 目	低圧耐火ケーブル平型 「EM-SH-C®」	低圧耐火ケーブル平型溝付 「EM-SH-C®(FV)」
端末処理の様子		
絶縁体の傷付き	 どこに刃を入れるか分からず 絶縁体を傷付けるリスクあり	 溝に沿って刃を入れれば 絶縁体が傷付かない

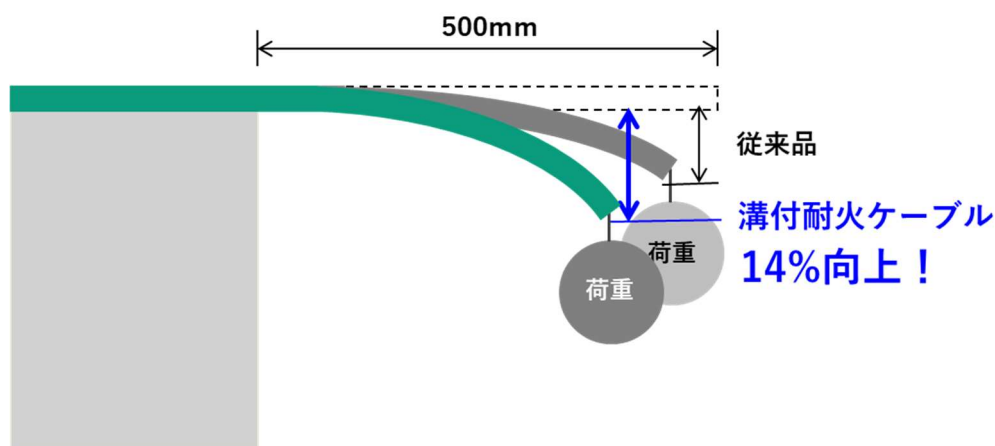
- ・溝付品は溝が刃を入れるガイドの役割を果たすため、絶縁体を傷付けず、安全な作業が可能です。

②端末処理荷重の削減



- ・従来品と比較して、溝付品はガイド部分の外被厚さが薄くなっており、刃がシースを貫通する際に必要な荷重が約40%削減されています。(当社調べ)

③可とう性の向上



- ・従来品と比較して、溝付品は約 14%可とう性に優れております。(当社調べ)

④ケーブル重量の軽量化（例、3 心×3.5 mm²）

項 目	低圧耐火ケーブル平型 「EM-SH-C®」	低圧耐火ケーブル平型溝付 「EM-SH-C®(FV)」
外径	7.5×16.5 mm	7.5×16.5 mm
概算重量	210kg/km	200kg/km

- ・従来品と比較して、溝付品は製品重量が 2～6%軽量化しております。

「EM-SH-C®」は富士電線の登録商標です。

<参考>

- ・富士電線株式会社

<https://www.tokyo-fuji.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

～ 照会先 ～

富士電線株式会社 東京事務所
TEL：03-5217-0911

～ 報道機関お問合せ先 ～

SWCC株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 広報グループ
inq-sonota@swcc-g.com